



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 会長
(株)観光企画設計社 代表取締役社長

鈴木 裕

今、プラットフォームという概念が魅力的です。サービスを提供する企業と利用者が結びつく場所を提供する場のことを言います。当協会は「国際観光振興に技術で貢献する公益社団法人」であり、会員は建築、構造、設備、外構、インテリア、土木等の設計者、総合建設業者、設備業者、内装施工業者、造園業者、等の施工業者、家具、照明、建具、内装材等の各種メーカー、そして各種コンサルタント等の観光施設の建設に関連する企業で構成されています。会員にメリットのある活動を企画して実施することにより観光のお役に立つCSV (Creating Shared Value) 活

動をする場、すなわち国際観光施設協会は観光技術のプラットフォームであります。観光は国の自然、風土、歴史、人々の生活全般に関連する総合的な行為であります。そうした観光の技術は広い範囲にわたるものであり、テーマには事欠きません。

観光施設の視察・研究、講演会、観光技術の広報、啓蒙活動を始め、技術委員会ではエコ小活動、木づかい活動、新ユニバーサルデザイン客室研究、ITワゴン研究、観光施設の耐震研究、海事観光活動、観光施設のフェーズフリー研究、そして観光施設の安全安心の研究など多岐にわたる研究活動を展開しています。そうした活動の場である「観光技術のプラットフォーム」を広く一般の方々に知っていただくべく、週刊ホテルレストラン誌上に「観光施設メディアラボ」というページを開設させていただいています。

さて、日本は南北3000キロに渡る亜熱帯から亜寒帯に至る変化に富んだ大変美しい自然に恵まれた国です。しかしその美しい自然景観は世界でもまれな四つのプレートで構成された地殻の大変動によって形作られており、常に動いていることも事実です。したがって日常の穏やかで快適な生活と、非常時の地獄絵が紙一重で共存している国土でもあ

ります。そうした美しいけれども恐ろしい国土に2000年に渡る先住民と渡来人の交雑を通じた悲喜こもごもの物語が重なり、複雑で繊細な風土を形造ってきました。万物流転の諸行無常の仏教思想は、万民が身を持って感じるができる物語の連続であり、時代の力の限り改善を尽くし、あとはひたすら仏に祈り、時の流れに悲しみを委ねてきた歴史です。日本はそうした災害大国でもありません。また、観光客は第一の災害弱者であります。日本で観光技術を手掛ける協会として観光施設の安全安心を扱うことは必須条件です。今回、当協会がさまざまな業種の会員に業務内容で扱われる安全安心のための技術について記事を冊子にまとめましたので皆さまのお役に立てれば幸いです。



2019年CSV中間
報告会





公益社団法人国際観光施設協会 理事
技術委員会・ホテル都市分科会長
鹿島建設(株) 建築設計本部
シニアマネージャー

野出木 貴夫

日本は災害大国と言われて久しい。日本の国土面積は世界国土のわずか0.3%に満たないのにマグニチュード6以上の世界の地震の20%強が日本で発生しているといわれます。また世界の活火山の約7%がこの狭い日本にあるのも現実です。2011年の東日本大震災はまだ記憶に新しいですが、政府の発表によれば、30年以内にM7クラスの首都直下型地震の発生する確率は70%程度、東南トラフに30年以内にM8-9クラスの大地震が発生する確率も同じく70%程度とされています。明日に起こっても想定外と言いつてはできないでしょう。

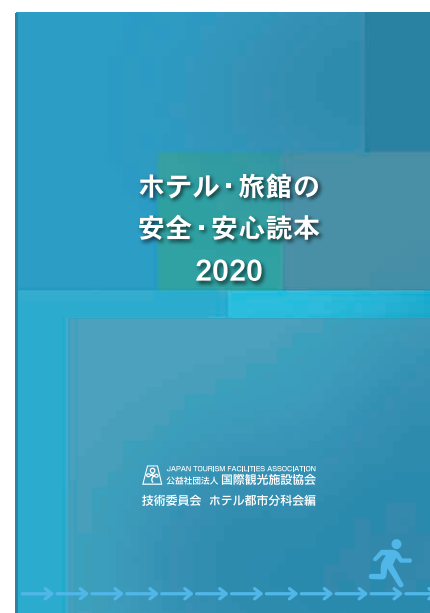
一方でホテル・旅館などの宿泊施設

に視点を戻せば、その周辺に起きる災害は自然災害に限らず、環境汚染や建築の瑕疵工事による災害など人為災害に加え、最近ではサイバーテロ、新型コロナウイルス感染などの特殊災害も無視できなくなってきました。また外的要因によらぬ施設内傷害事故は今後ますます客層の高齢化が進む中で取りこぼしてはならない安全対策の対象となるでしょう。

当協会では2008年に「泊まって安心？ ホテル・旅館の安全性」を刊行していますが、その後の宿泊施設を取り巻く著しい環境の変化、また技術的進化などもあり、かねてより改定または追補の必要性を感じていました。2016年にホテル・旅館の専門情報誌「週刊ホテルレストラン」より「観光施設メディアラボ」の連載企画をいただき、このページをプラットフォームとして協会内技術委員会の一つであるホテル都市分科会が活動の一環として「ホテル・旅館の安全・安心」をテーマに月に1～2回程度の頻度で担当してまいりました。分科会の協会委員、賛助専門委員の協力得て寄稿を重ね、掲載を始めて早くも約3年を越えますが、約40数編が掲載されテーマも一巡したことから、これを冊子として刊行することになりました。観光施設を取り巻くリスク環境は今もなお変化を続け、フォローしなければならぬテーマもまだ出てくるでしょうが、2008年版の追補版と

して一区切りとし「ホテル・旅館の安全・安心読本2020」を上梓するにいたしました。見開き2ページで1テーマの編集を守り、図版も多く興味のある記事を、どこからでも読める構成としています。また執筆者の顔写真も掲載し質疑・問い合わせなどコンタクトのしやすさも若干加えられたかと思えます。ぜひお手元に置きリスク管理の手引書として参考としていただければ幸いです。出版は本年6月を予定しており、当協会HPより申し込みをお願いします。

文末となりましたが、まず「観光施設メディアラボ」という連載ページをご提供いただき、協会冊子への転載の快諾をいただいたオータパブリケーションズの編集部の方々はこの紙面を借りてお礼申し上げます。



2020年6月協会より出版予定、定価1500円（税・送料別）